国際金融論（2011） 中間試験

担当 岩村 英之

実施日時 2011 年 6 月 21 日 13:30-14:30

注意

- 配布資料等持ち込みは不可とする.
- 計算機の使用は認めない.
- 数値での答えを要求する問題であっても，思考の過程を説明すること．数値のみを答えている場合，数値が正しくとも採点しない．一方，過程が説明されていて，かつそれが正しければ，最終的な数値が間違っていても部分点を与える.
- 時間と解答用紙の大きさを勘案し,「適度に」詳しく解答すること.
- 問題は裏面にもあります.

問題

1. 「帰属家賃」とは何か．GDP 統計と関連付けて説明しなさい.（10 点）
2. 短期的な経常赤字のポジティヴな側面について，アブソープション・アプローチの観点から説明しなさい．また，経常赤字が**長期間持続**することの問題点について説明しなさい.（10 点）
3. 国際収支表に関する以下の各問に答えなさい（ここは答えのみでよい）.

   (a) 日本と外国の間で，1 年間で以下の取引が行われたとする．それぞれの取引は日本の国際収支表にどのように記載されるか．表 1 にならって国際収支表を作成しなさい．ただし，それぞれの金額が AB いずれの取引に対応するものなのか分かるように,「50 億円（取引 A）」という形式で記入すること.（20 点）

   取引 A 日本人がイタリア企業からワインを 50 億円分購入し，イタリア企業がスイスに持つ銀行口座に代金を入金する.

   取引 B 日本企業がアフリカ企業に貸していた 100 億円（相当のドル）を，日本政府が肩代わりする（要するに，アフリカ企業は日本政府から借りて日本企業に返済するということ）.

	貸方	借方
経常勘定		
資本勘定		
公的外貨準備		

表 1: 国際収支表

   (b) この年，日本の対外純資産はどれだけの額どう変化したか.（5 点）

4. 今，円建資産の利子率 i が 0.01，ドル建資産の利子率 $i^\star$ が 0.05 であるとする．以下の各問に答えなさい（きれいな数字にならない場合は，小数点第 3 位以降を切り捨ててよい）.

   (a) 1 年後の円=ドル・レートの期待値が 84 円であるとすると，今日の円=ドル・レートは理論上どのような水準にあると考えられるか.（10 点）

   (b) 円建資産の利子率が 0.03 へと上昇したとする．このとき，円＝ドル・レートはどのような水準へと変化するか計算しなさい．また，その円＝ドル・レートに到達するまでのプロセス（＝人々がどのように行動し，外為市場でどのような変化が生ずるのか）を説明しなさい.（10 点）

   (c) $i = 0.01$ および $i^\star = 0.05$ のとき，1 ドル 88 円（つまり，(a) とは異なる為替レート）で外為市場が均衡しているとする．金利平価が成立しないにもかかわらず，市場が均衡している事実をどのように解釈することができるか．考えられるケースをひとつ説明しなさい.（5 点）

5. (a)「流動性」とは資産のどのような性質か，説明しなさい．(b) また，満期の長い債券（たとえば満期 10 年）と短い債券（たとえば 3ヶ月）とでは，どちらのほうが流動性が高いとあなたは考えるか，理由をつけて解答しなさい.（15 点）

6. （実質）貨幣需要と債券の利子率の関係を説明しなさい.（15 点）